

8.21 安全

8.21.1 調査事項

調査事項は、表 8.21-1 に示すとおりである。

表 8.21-1 調査事項

| 区 分 | 調査事項 |
|---------------|---|
| 予測した事項 | <ul style="list-style-type: none"> ・危険物施設等からの安全性の確保の程度 ・移動の安全のためのバリアフリー化の程度 ・電力供給の安定度 |
| 予測条件の状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・計画地周辺の危険物施設等の状況 ・施設内及び最寄りの鉄道駅から会場までの歩行者経路におけるバリアフリー施設の状況 ・電力供給施設の状況 |
| ミティゲーションの実施状況 | <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例（建築物バリアフリー条例）、東京都福祉のまちづくり条例及びTokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン暫定基準に適合した施設計画としている。 ・都としては「東京都長期ビジョン」において、2020年までに「2020年大会開催時における観光地や競技会場周辺等の道路のバリアフリー化」が完了する計画である。 ・車いす使用者への配慮として、全ての車いす席へのエレベーターでのアクセスを可能とし、同伴者席と車いす席が隣り合う座席計画とする等を行う計画としている。また、案内所、チケット売り場、売店のカウンターの一部をローカウンターにすること等を行う計画としている。 ・視覚障害者への配慮として、誘導ブロック、音声誘導装置、案内所インターホン、触知版、点字の整備を計画し、ミニFM導入用のラジオブース等の整備を行う計画としている。 ・聴覚障害者への配慮として、補聴設備対応席をバランス良く分散配置を計画する等を行う計画としている。また、総合案内所及び各階案内カウンターに筆談器を設置し、各トイレ、休憩室、授乳室にフラッシュランプを設置する等を行う計画としている。 ・知的・精神・発達障害者等への配慮として、専用休憩室内に柔らかい壁材を選定し、防音仕様を採用する等を行う計画としている。 ・子供連れ利用者への配慮として、吹抜部やコンコース外周部手摺を縦棧手摺で計画し、トイレとは別に独立した授乳室の整備等を行う計画としている。 ・高齢者への配慮として、エレベーターは1階から5階まで、エスカレーターは1階から4階まで着床可能な計画とし、全ての観客席縦通路に手摺を設置し、観客席出入口付近にプライオリティシートの設置等を行う計画としている。また、外構では50m以内ごとにベンチの設置等を行う計画としている。 ・外国人利用者への配慮として、案内サインはピクトグラムや多言語表記等を行う計画としている。 ・サイン計画は、文字サイズ、表示高さ、色彩・明度差等において、様々な人に分かりやすいサインとする計画としている。 ・トイレ計画は、観客の流動を円滑にするため、出入口を別々に計画し、入口から見えやすい位置にオストメイト対応ブースを計画する等、各利用者への配慮を行う計画としている。 ・計画建築物の電力設備は、22kVの本線及び22kVの予備電源にて受電し、6,000kVAの特高変圧器2台を設置する計画としている。 ・保安用発電機は2,075kVAの2台とし、高圧変電設備についても、電圧種別ごとに1本の予備変圧器を設置する計画としている。 ・非常用発電機（2,500kVA）を設置する計画としている。 ・施設のユニバーサルデザインの状況については、フォローアップで確認する。 |

8.21.2 調査地域

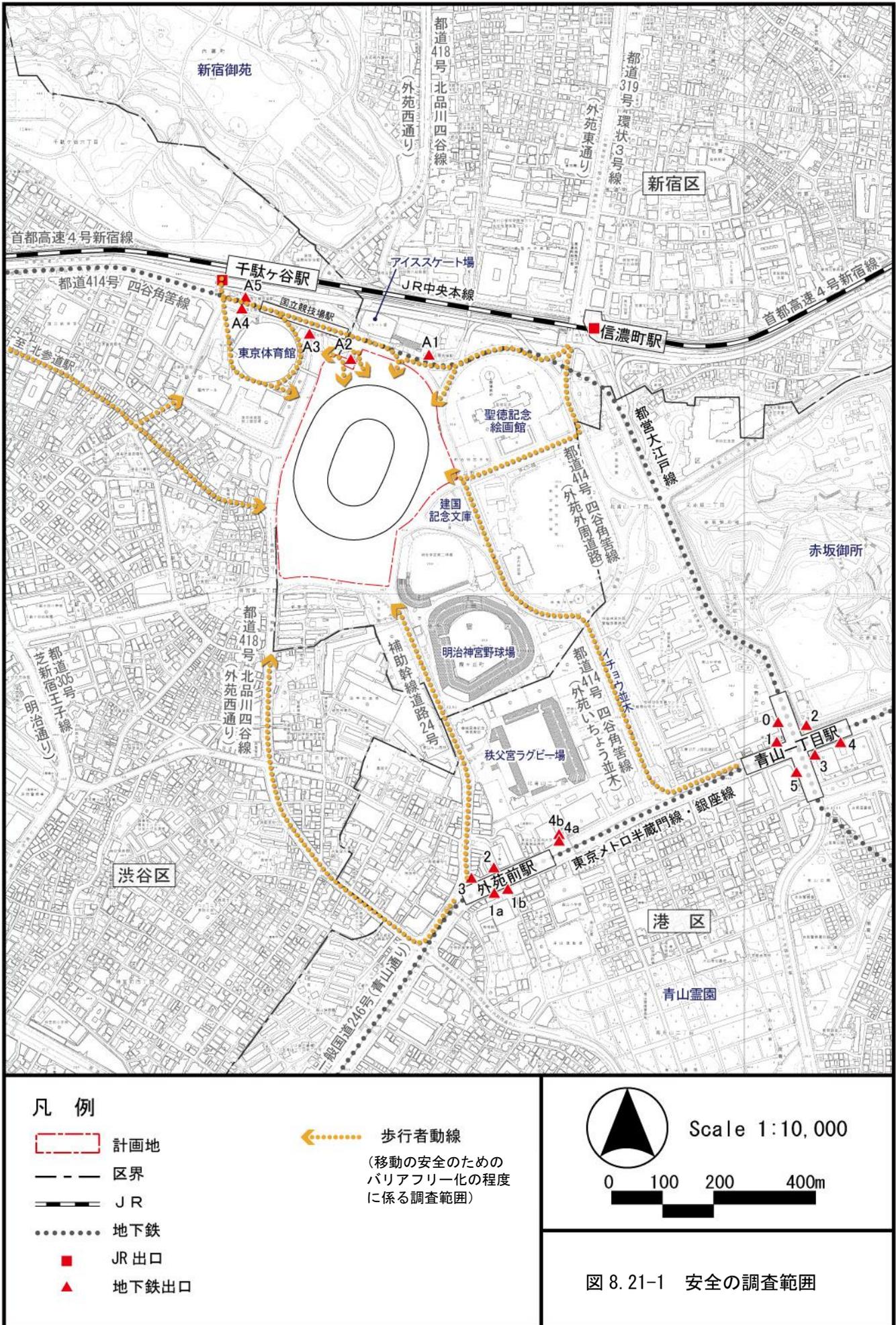
調査地域は、計画地及びその周辺とした。

8.21.3 調査手法

調査手法は、表 8.21-2 に示すとおりである。

表 8.21-2 調査手法

| 調査事項 | | 危険物施設等からの安全性の確保の程度 | 移動の安全のためのバリアフリー化の程度 | 電力供給の安定度 |
|------|---------------|--------------------|--|---------------------------------|
| 調査時点 | | 施設完成後とした。 | | 施設の供用が開始され、事業活動が通常の状態に達した時点とした。 |
| 調査地点 | 予測した事項 | 施設完成後の適宜とした。 | | |
| | 予測条件の状況 | 施設完成後の適宜とした。 | | |
| | ミティゲーションの実施状況 | 施設完成後の適宜とした。 | | |
| 調査地点 | 予測した事項 | 計画地周辺とした。 | 計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路(図8.21-1)とした。 | 計画地周辺とした。 |
| | 予測条件の状況 | 計画地周辺とした。 | 計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路(図8.21-1)とした。 | 計画地周辺とした。 |
| | ミティゲーションの実施状況 | 計画地周辺とした。 | 計画地及び公共交通機関から計画地への主要なアクセス経路(図8.21-1)とした。 | 計画地周辺とした。 |
| 調査手法 | 予測した事項 | 関連資料の整理とした。 | 現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とした。 | 関連資料の整理とした。 |
| | 予測条件の状況 | 関連資料の整理とした。 | 現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とした。 | 関連資料の整理とした。 |
| | ミティゲーションの実施状況 | 関連資料の整理とした。 | 現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理とした。 | 関連資料の整理とした。 |



8.21.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) 予測した事項

ア. 危険物施設等からの安全性の確保の程度

計画地周辺ではガソリンスタンドが分布しており、最も近いガソリンスタンドは計画地から450m(南)の距離に位置しているが、危険物施設等は消防法等の法令等に基づき適切に維持管理されている。また、計画地周辺の明治神宮外苑は、東京都震災対策条例(昭和46年施行時東京都予防対策条例)に基づく避難場所に指定されているので、安全が確保されている。

計画建築物では、非常用発電機用の燃料はA重油、13,000Lの地下埋設型のタンクを設置した。

イ. 移動の安全のためのバリアフリー化の程度

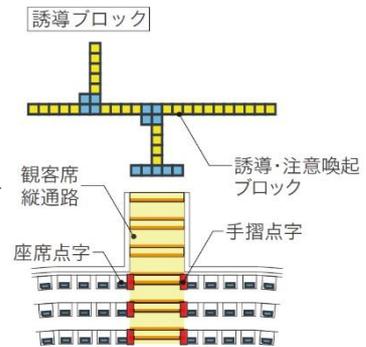
計画建築物は、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例、東京都福祉のまちづくり条例及びTokyo2020アクセシビリティ・ガイドラインに基づき、施設内では表8.21-3(1)～(3)に示すバリアフリー化をすべて実施した。

ウ. 電力供給の安定度

計画建築物では、22kVの本線及び22KVの予備電源(本線の変電所とは異なる変電所からも引き込む方式)にて受電し、6,000KVAの特高変圧器2台を設置した。保安用発電機は2,250KVAの2台、高圧変電設備は電圧種別ごとに1台の予備変圧器を設置した。また、非常用発電機機(2,500KVA)を設置した。

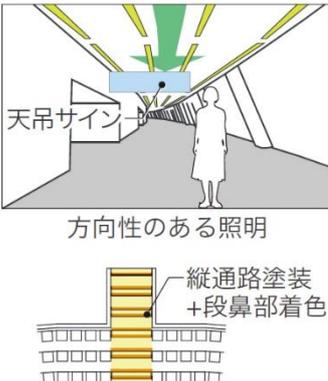
表 8.21-3(1) 計画建築物のユニバーサルデザインの計画

| 項目 | 新国立競技場のユニバーサルデザインの計画（主な内容） |
|---------------|--|
| 1. 様々な利用者への配慮 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 安全にアクセスができるスタジアム計画 2. 安全でフラットな水平移動を実現 3. 目的地まで円滑に移動できるシンプルな平面移動 |
| 2. 車いす使用者への配慮 | <ol style="list-style-type: none"> 1. どこからでも観戦可能な車いす席配置計画 <ul style="list-style-type: none"> ・全ての車いす席へエレベーターでのアクセスが可能である。アリーナイベント時においては、南北のエレベーターを使って安全にフィールドへアクセスできる計画とする。 ・同伴者席によって車いす席が分断されず、2席が隣り合う座席計画とする。 2. パラリンピック競技大会への移行性に優れた車いす席計画 <ul style="list-style-type: none"> ・車いす席約 500 席分を常設で確保することで、オリンピック競技大会以降も車いす使用者が利用しやすい計画とする。 3. 感動の瞬間を分かち合えるサイトライン計画 <ul style="list-style-type: none"> ・眼高の設定については、眼高の低い車いす使用者（女性）のサイトラインを極力確保できるよう、建築設計標準内に参考値として示されている 105cm より低い 100cm を標準として計画する。 ・前列の人の身長については、日本人男性の平均身長 170cm に覆物厚さ 5cm を足した 175cm を想定する。サイトライン確保が一番難しい 2 層目最上段においても、視界を妨げない計画とする。 4. 安全な避難環境の実現 5. 多様な車いす用車両に対応した駐車場計画 <ul style="list-style-type: none"> ・B2 階に IPC 基準以上の車いす使用者用駐車場（計 23 台 > 6 台）を確保することで、車いす使用者の積極的な受け入れが可能な計画とする。 ・ノンステップバスに対応できるスペースを B2 階に計画する。 ・車いすリフトに対応した駐車場を B2 階に 7 台計画する。さらに、車いすリフト対応車両駐車場には、後方に十分なスペースと、安全に建物内へアクセスできる動線を確保する。 ・車いす使用者用駐車場付近にも車いす使用者用トイレを設置する。 6. あらゆるサイズの車いすでのアクセスが可能な計画 <ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者がどこからでもアクセスができるよう、ゲートにはハンドル式車いすにも対応可能な、幅 90cm の部分を設ける計画とする。 ・寝たきりの重度障がい者も移動可能なエレベーター（カゴ奥行寸法 200cm）を全てのエリアに設置する。※ストレッチャーで緊急搬送も可能 ・電動車いすの充電スペースを各層の車いす席近くに計画する。 7. 車いす使用者にフィットする快適な利用環境の実現 <ul style="list-style-type: none"> ・案内所、チケット売り場、売店のカウンターをローカウンターにすることで、車いす使用者が使いやすい計画とする。 8. 乗り換え対応席の整備 9. 円滑な競技運営をサポートする配慮 |
| 3. 視覚障がい者への配慮 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 視覚障がい者誘導設備の適切な設置によるアクセスサポート <ul style="list-style-type: none"> ・下記案内設備を計画し、視覚障がい者が円滑に施設を利用できるよう整備する。 <ol style="list-style-type: none"> ①誘導ブロック <ul style="list-style-type: none"> ・「外構⇒主要な出入口⇒案内所⇒コンコース（1 階コンコース一周）⇒観客席の縦通路上段」に設置 ②音声誘導装置（エレベーター・エスカレーター・トイレ入口前に設置） ③案内所インターホン（1 階外部計 3 か所設置） ④触知版（トイレの入口の見やすい場所に設置） ⑤点字（手摺点字・縦通路手摺・座席点字） |



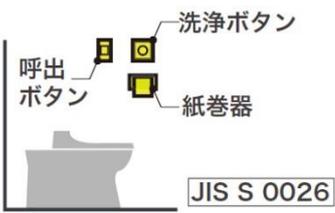
出典：「新国立競技場整備事業 技術提案書」（新国立競技場整備事業大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体 平成 27 年 11 月）等を基に作成（（独）日本スポーツ振興センターへのヒヤリングにより一部修正）。

表 8.21-3(2) 計画建築物のユニバーサルデザインの計画

| 項目 | 新国立競技場のユニバーサルデザインの計画 (主な内容) | |
|----------------------|--|--|
| 3. 視覚障がい者への配慮 | <p>2. 安全な歩行空間の形成</p> <ul style="list-style-type: none"> 方向性のある照明計画を行うことによって、弱視の方が進行方向を認識しやすい計画とする。 経路を視認しやすいよう、観客席の縦通路に着色を施す。さらに、段鼻部は別の色で着色することにより踏み外し・躓きを防止する。 ガラス部には衝突防止サインを計画することで、弱視の方を含めて衝突による怪我を防止する。 自動ドアに安全柵を設置することで、巻き込み事故を防止する。 <p>3. 災害音声誘導による安全性の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 観客席出入口から避難階段への誘導と、避難方向を音声で示す避難誘導灯の配置を行うことで、安全な避難環境を形成する。 |  <p>天吊サイン</p> <p>方向性のある照明</p> <p>縦通路塗装 +段鼻部着色</p> |
| 4. 聴覚障がい者への配慮 | <p>1. 良好な案内環境の形成によるアクセスサポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合案内所及び各階案内カウンターに筆談器を設置することにより、手話ができない方でも、案内がどこでも受けられる計画とする。 <p>2. 集団補聴設備の分散配置による観戦サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 観客席にバランス良く約 400 席計画する。また、磁気ループ範囲に車いす席も含めることで、車いす使用の聴覚障がい者も補聴サービスが受けられるよう計画する。 コンコースや観客席縦通路から見やすい位置に補聴設備対応席のサイン表記を行う計画とする。 <p>3. 災害時における視覚警告による避難サポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 各トイレ、休憩室、授乳室にフラッシュランプを設置する。 大型映像装置に警告表示を行う。 | |
| 5. 知的・精神・発達障がい者等への配慮 | <p>1. 休憩室（カームダウン・クールダウン）内の仕上材の選定及び防音仕様の採用</p> <ul style="list-style-type: none"> 柔らかい壁材を選定することにより、自傷行為による怪我を防止する。 ①防音仕様、②横たわれる床材選定、③落ち着ける調光設備を計画することで、リラックスし、落ち着かせることができる部屋（スヌーズレンルーム等）として機能するようにする。 <p>2. 異性による付添利用に配慮したトイレの計画</p> <ul style="list-style-type: none"> 発達障がい者等の付添者への配慮として、各階に男女共用トイレ※を設置することで、異性による付添利用が可能な計画とする。 <p>※LGBT や発達障がい者の付添利用等に配慮したトイレ</p> | |
| 6. 子供連れ利用者への配慮 | <ul style="list-style-type: none"> キッズルーム・託児室は1階外周部に配置することで、災害時すぐに避難できる安全な計画とする。 吹抜部やコンコース外周部手摺を縦横手摺で計画することで、幼児のフェンス乗り越えによる転落防止を防ぐ。 授乳室はトイレとは別に独立して各層バランス良く計画する。授乳ブースは2ブース併設を基本とし、授乳室内の混雑を解消する。 階段内の手摺については2段手摺とすることで、幼児が安全に移動できる計画とする。 | |
| 7. 高齢者への配慮 | <p>1. 各層エレベーター・エスカレーターによるアクセスが可能な動線計画</p> <ul style="list-style-type: none"> エレベーターは1階から5階まで、エスカレーターは1階から4階まで着床可能な計画とし、移動の負担を軽減する。 <p>2. 足腰に負担をかけない施設設備の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> 全ての観客席縦通路に手摺を設置する。 トイレブース内にL型手摺を設置する。 外構には50m以内ごとにベンチを設置する。 エスカレーターは水平3枚ステップ、原則として傾斜角30°、速度調整器付のものを採用する。 2・3・4階コンコース、5階「空の柱」に休憩ベンチを設置できるスペースを確保する。 <p>3. 移動が少なく安全で使いやすい優先席を設置</p> <ul style="list-style-type: none"> 上がり下がり少ない観客席出入口付近に優先席（シートカバーを用意）を設置することで、日常的な足腰への負担を軽減し、かつ災害時の安全な避難を可能にする。 | |

出典：「新国立競技場整備事業 技術提案書」（新国立競技場整備事業大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体 平成 27 年 11 月）等を基に作成（(独)日本スポーツ振興センターへのヒヤリングにより一部修正）。

表 8.21-3(3) 計画建築物のユニバーサルデザインの計画

| 項目 | 新国立競技場のユニバーサルデザインの計画 (主な内容) |
|---------------|--|
| 8. 外国人利用者への配慮 | <p>1. 日本産業規格のピクトグラムと多言語表記</p> <ul style="list-style-type: none"> ・案内サインはピクトグラムを採用する。ピクトグラムで表現できない箇所については、多言語表記を行う。 <p>2. 多宗教の受け入れへの配慮</p> <ul style="list-style-type: none"> ・B2 階フラッシュインタビューゾーンに隣接して礼拝室にも利用可能な控室を計画することで、競技者においても多宗教に対応できる計画とする。 <div style="text-align: right;">   WC 車いす   案内 ESC </div> |
| 9. サイン計画 | <p>1. 様々な人に分かりやすいサイン計画の考え方</p> <p>サイン設定対象</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要な動線を形成する結節点にサインを設置する。 <p>文字サイズ・内容設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20m 前後離れた場所からも適切に視認できる文字サイズを設定する。 <p>表示高さの設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持ち出しサインの高さは通行の支障にならない位置（下端高さ=2.1m 以上）に設置する。 <p>色彩・明度差の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本には色覚障がい者が男性 20 人に 1 人、女性 200 人に 1 人の割合でいることから、案内サインに記号を使う等、色彩だけに頼らない計画とする。 ・色覚シミュレーターを用いて、様々な人にとって認識しやすい色彩計画とする。 ・視認性を上げるため明度スケール 5 段階以上の差を設定する。 ・エレベーターボタンは周辺壁とコントラストをつけた色を採用することで弱視の方にも見やすい計画とする。 |
| 10. トイレ計画 | <p>1. トイレの動線計画</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレは観客の流動を円滑にするため、出入口を別々に計画し、行き止まりをつくらない計画とする。 ・洗面エリアとトイレエリアを明確に分けることで、洗面利用だけでも可能な計画とする。 <p>2. 各利用者へのきめ細やかな配慮</p> <ol style="list-style-type: none"> ①車いす席から近い位置に車いす使用者用トイレを計画する。2 室以上併設されるトイレは左右勝手異なるトイレとし、様々な使い方に配慮し使う向きを選ばない計画とする。また、全ての車いす使用者用トイレは男女トイレとは独立した位置に配置し、機能分散を図ったトイレとする。 ②多目的トイレだと親子利用者や車いす利用者などの利用が集中してしまうことから、一般トイレや男女共用トイレ内へ一部機能（ベビーチェア、おむつ交換台）を分散させることで、車いす使用者用トイレへの利用集中を回避する計画とする。 ③高齢者利用を想定し、L 型手摺、手摺付小便器、手摺付洗面カウンターを設置する。 ④視覚障がい者利用を想定し、男女共用トイレ内、車いす使用者用トイレ内、一般トイレ全ブースに JIS S0026 型を採用する。 <div style="text-align: center;">  <p>呼出ボタン 洗淨ボタン 紙巻器</p> <p>JIS S 0026</p> </div> <ol style="list-style-type: none"> ⑤親子利用を想定し、一般トイレ入口から見えやすい位置に親子利用対応ブース（ベビーカー乗り入れ折戸対応、ベビーチェア、小児用便座）、出入口付近にベビーベッドを計画する。 ⑥上記親子利用対応ブースは車いす使用者用簡易便房（150cm×150cm）としても併用可能である。 ⑦託児室・キッズスペース内に乳幼児用トイレを計画する。 ⑧小児利用を想定し、全ての小便器を低リップ型、一部の洗面カウンターをローカウンターとする。 ⑨オストメイト利用を想定し、入口から見えやすい位置にオストメイト対応ブース（オストメイト流し、フィッティングボード）を計画する。 ⑩待機列から空ブースを確認できるようフラッグサインを設置する。 ⑪VIP、VVIP、選手用トイレ、男女共用トイレ、全ての車いす使用者用トイレに温水洗淨便座（便座ヒータ付）を計画する。 ⑫地下1階一般トイレに扉を設置し、またトイレの表示サインを付け替えてできる仕様とすることでイベント毎の男女比変更に対応できる計画とする。 |

出典：「新国立競技場整備事業 技術提案書」（新国立競技場整備事業大成建設・梓設計・隈研吾建築都市設計事務所共同企業体 平成 27 年 11 月）等を基に作成（（独）日本スポーツ振興センターへのヒヤリングにより一部修正）。

2) 予測条件の状況

ア. 計画地周辺の危険物施設等の状況

「1) 予測した事項」に示したとおりである。

イ. 移動の安全のためのバリアフリー化の程度

「1) 予測した事項」に示したとおりである。

ウ. 電力供給施設の状況

「1) 予測した事項」に示したとおりである。

3) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.21-4(1)及び(2)に示すとおりである。

なお、安全に関する苦情は工事終了までになかった。

表 8.21-4(1) ミティゲーションの実施状況

| ミティゲーション | 実施状況 |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例(建築物バリアフリー条例)、東京都福祉のまちづくり条例及びTokyo2020アクセシビリティ・ガイドライン暫定基準に適合した施設計画としている。 | <p>施設は、車いす使用者、視覚障害者、聴覚障害者、知的・精神・発達障害者、子供連れ利用者、高齢者及び外国人利用者へ配慮したユニバーサルデザインを導入した。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・都としては「東京都長期ビジョン」において、2020年までに「2020年大会開催時における観光地や競技会場周辺等の道路のバリアフリー化」が完了する計画である。 | <p>東京都として、2020年大会開催時における競技会場周辺の道路のバリアフリー化は、「東京都道路バリアフリー推進計画」に基づき、整備が進められた。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・車いす使用者への配慮として、全ての車いす席へのエレベーターでのアクセスを可能とし、同伴者席と車いす席が隣り合う座席計画とする等を行う計画としている。また、案内所、チケット売り場、売店のカウンターの一部をローカウンターにすること等を行う計画としている。 | <p>全ての車いす席へのアクセスが可能となるようエレベーターを設置し、同伴者席と車いす席が隣り合う座席配置とした(写真8.21-1)。また、案内所、チケット売り場、売店のカウンターにローカウンターを設置した(写真8.21-2)。ペDESTリアンデッキへのアクセスの配慮として、南側交差点付近にバリアフリー対応エレベーターを追加設置した。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・視覚障害者への配慮として、誘導ブロック、音声誘導装置、案内所インターホン、触知版、点字の整備を計画し、ミニFM導入用のラジオブース等の整備を行う計画としている。 | <p>視覚障害者への配慮として、誘導ブロック、音声誘導装置、案内所インターホン、触知版、点字、ミニFM導入用のラジオブースが設置できるスペースを整備した(写真8.21-3～写真8.21-8)。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚障害者への配慮として、補聴設備対応席をバランス良く分散配置を計画する等を行う計画としている。また、総合案内所及び各階案内カウンターに筆談器を設置し、各トイレ、休憩室、授乳室にフラッシュランプを設置する等を行う計画としている。 | <p>聴覚障害者への配慮として、補聴設備対応席を分散配置した。また、総合案内所及び各階案内カウンターに筆談器を設置し、各トイレ、休憩室、授乳室にフラッシュランプを設置した(写真8.21-9～写真8.21-10)。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・知的・精神・発達障害者等への配慮として、専用休憩室内に柔らかい壁材を選定し、防音仕様を採用する等を行う計画としている。 | <p>知的・精神・発達障害者等への配慮として、休憩室(カームダウン・クールダウン)内に柔らかい壁材を選定し、防音仕様を採用した。</p> |

表 8.21-4(2) ミティゲーションの実施状況

| ミティゲーション | 実施状況 |
|--|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ・子供連れ利用者への配慮として、吹抜部やコンコース外周部手摺を縦棧手摺で計画し、トイレとは別に独立した授乳室の整備等を行う計画としている。 | <p>子供連れ利用者への配慮として、吹抜部やコンコース外周部手摺を縦棧手摺で設置した(写真8.21-11)。また、トイレとは別に独立した授乳室を整備した(写真8.21-12)。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者への配慮として、エレベーターは1階から5階まで、エスカレーターは1階から4階まで着床可能な計画とし、全ての観客席縦通路に手摺を設置し、観客席出入口付近にプライオリティシートの設置等を行う計画としている。また、外構では50m以内ごとにベンチの設置等を行う計画としている。 | <p>高齢者への配慮として、エレベーターは1階から5階まで、エスカレーターは1階から4階まで着床可能な設備とした。また、全ての観客席縦通路に手摺を設置し、観客席出入口付近に優先席(シートカバーを用意)の設置を行った(写真8.21-13～写真8.21-14)。外構では50m以内ごとにベンチを設置した(写真8.21-15)。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・外国人利用者への配慮として、案内サインはピクトグラムや多言語表記等を行う計画としている。 | <p>外国人利用者への配慮として、案内サインはピクトグラムや多言語表記を行った(写真8.21-16)。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・サイン計画は、文字サイズ、表示高さ、色彩・明度差等において、様々な人に分かりやすいサインとする計画としている。 | <p>サインは、文字サイズ、表示高さ、色彩・明度差等において、様々な人に分かりやすい表示とした(写真8.21-17)。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ計画は、観客の流動を円滑にするため、出入口を別々に計画し、入口から見えやすい位置にオストメイト対応ブースを計画する等、各利用者への配慮を行う計画としている。 | <p>トイレ計画は、観客の流動を円滑にするため、出入口を別々に計画し、入口から見えやすい位置にオストメイト対応ブースを設置した(写真8.21-18)。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・計画建築物の電力設備は、22kVの本線及び22kVの予備電源にて受電し、6,000kVAの特高変圧器2台を設置する計画としている。 | <p>計画建築物への電力設備は、22kVの本線及び22kVの予備電源にて受電し、6,000kVAの特高変圧器2台を設置した。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・保安用発電機は2,075kVAの2台とし、高圧変電設備についても、電圧種別ごとに1本の予備変圧器を設置する計画としている。 | <p>保安用発電機は2,250kVAの2台を設置し、高圧変電設備についても、電圧種別ごとに1台の予備変圧器を設置した。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・非常用発電機(2,500kVA)を設置する計画としている。 | <p>非常用発電機(2,500kVA)を設置した(写真8.21-19)。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・施設のユニバーサルデザインの状況については、フォローアップで確認する。 | <p>施設のユニバーサルデザインの状況をフォローアップで確認した結果、上記のとおりであった。</p> |

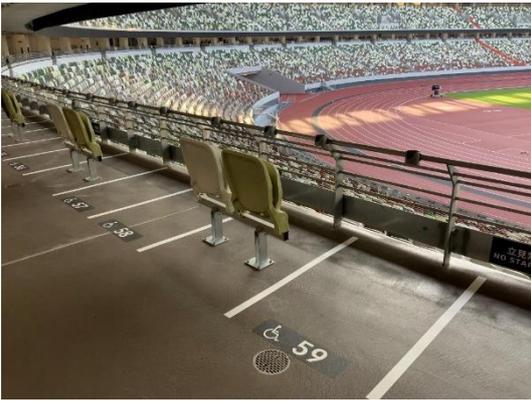


写真 8.21-1 同伴者席と車いす席が隣り合う座席



写真 8.21-2 ローカウンター

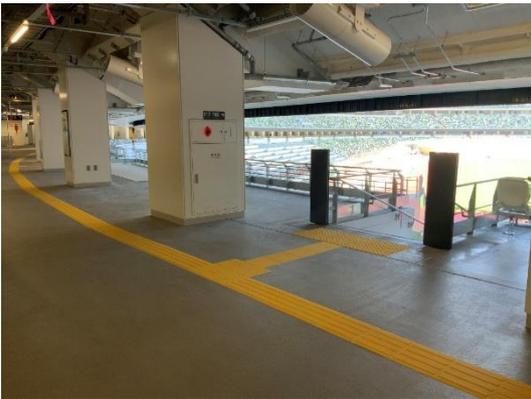


写真 8.21-3 誘導ブロック



写真 8.21-4 音声誘導装置



写真 8.21-5 案内所インターホン



写真 8.21-6 触知版



写真 8.21-7 点字



写真 8.21-8 ラジオブーススペース



写真 8.21-9 筆談器



写真 8.21-10 フラッシュランプ



写真 8.21-11 縦棧手摺



写真 8.21-12 授乳室



写真 8.21-13 観客席縦通路の手摺



写真 8.21-14 優先席（シートカバーを用意）



写真 8.21-15 屋外ベンチ



写真 8.21-16 ピクトグラム



写真 8.21-17 サイン類



写真 8.21-18 オストメイトトイレ



写真 8.21-19 非常用発電機

(2) 予測結果とフォローアップ調査結果との比較検討

1) 予測した事項

ア. 危険物施設等からの安全性の確保の程度

計画地周辺の危険物施設等は消防法等の法令等に基づき適切に維持管理され、計画地周辺の明治神宮外苑は、避難場所に指定されている。計画建築物では、非常用発電機用の燃料は安全性の高い地下埋設型のタンクを設置した。

以上のことから、予測結果と同様に、東京都等が定めた地域防災に係る計画等の中で当該地域に設定している地域の安全性に関する目標等との整合が図られているものとする。

イ. 移動の安全のためのバリアフリー化の程度

計画建築物は、高齢者、障害者等の移動等の円滑化の促進に関する法律、高齢者、障害者等が利用しやすい建築物の整備に関する条例、東京都福祉のまちづくり条例及び Tokyo2020 アクセシビリティ・ガイドラインに基づき、施設内ではバリアフリー化を図った。

以上のことから、予測結果と同様に、東京都等が定めた移動円滑化等に係る計画等の中で当該地域に設定している地域の安全性に関する目標等との整合が図られているものとする。

ウ. 電力供給の安定度

計画建築物では、予備電源、保安用発電機及び非常用発電機を設置した。

以上のことから、予測結果と同様に、受電設備の故障に伴う停電発生率の低減及び一般停電時の保安の確保がなされているものとする。